

平成28年度高山市総合計画審議会 議事要旨

日 時：平成29年1月24日（火） 10時00分～12時15分

場 所：高山市庁舎4階 特別会議室

出席者：21名

堀委員、蓑谷委員、高木委員、下屋委員、本林委員、内木委員、谷口委員、村上委員、針山委員、京極委員、泉委員、平塚委員、高垣委員、益田委員、和賀委員、野中委員、三宅委員、長谷川委員、門前委員、田邊委員、桑山委員

欠席者：4名

松葉委員、川上委員、西永委員、高井委員

事務局：4名

西田企画管理部長、田谷企画課長、清水係長、桑山

1 開会

2 部長あいさつ

3 委員委嘱

4 会長及び副会長の選出について

会長：堀泰則 委員 副会長：京極範子 委員 に決定

5. 議事（進行：堀会長）

（1）高山市第八次総合計画の進捗について

資料に基づき事務局が説明

堀会長 ・ 市民アンケートの満足度について、労働分野が低い状況にある。高山における有効求人倍率は約1.7と高い数値を示しており、この数値は労働力不足も意味していると考えますが、それぞれの委員の皆様が携わっておられる業界では、どのような状況か。

蓑谷委員 ・ 最近、労働力不足についての相談が増えている。旅館やホテルでは満室にしたがい人手不足により十分なサービスが出来ないため、満室にできない状況にある。また、宴会を断っている旅館もある。
・ 労働問題についてもっと真剣に考える必要がある。例えば、学校や各企業で土日休みではなく、水木休みにするなど、他ではやっていないことが出来ないかと考えている。それにより、観光客の多い土日などに人材が確保できるようになるのではないかと。

堀会長 ・ 農業分野ではどうか。

谷口委員 ・ 農業分野でも同様の状況となっている。例えば、ほうれん草農家では、規模を拡大したくても、作業員が確保出来ないため断念している農家もある。一部の農家では外国人実習生制度を取り入れているが制度上の課題もある。今後も引

き続き行政と一緒にあって対策を講じていきたい。

- 本林委員
- ・ 都会へ行った子ども達が戻って来ない現状がある。進学等で都会へ行くことは仕方がないが、地元へ戻って来たいと思えるように、学校などで教育として取り組めないか。家庭教育、学校教育の中で、子ども達が地元に戻ってきたいと思えるような取り組みができないかと考えている。そのためには、高山で働くことに誇りを持つるようになる必要がある。
- 堀会長
- ・ この問題については、郷土教育を教育委員会でも取り組んでいるが、針山委員から何かご意見はあるか。
- 針山委員
- ・ 郷土教育は、教育委員会では教育の一つの柱として、保育園から高校まで連系して取り組んでいる。先日、高校との連携に向けた会議も行ったところ。
 - ・ 労働力不足については、人口減少が進んでいることにより当然起こるもの。企業に労働環境を改善していただく策が必要。また、企業だけでなく、地域を含めた全体的な活性化をしていかななくてはいけないと考えている。
 - ・ なお、郷土に戻ってくる思いを育てるために、各中学校では毎年キャリア教育として地域企業の経営者の方々に話をしている。
- 堀会長
- ・ 協働のまちづくりなどについて意見はどうか。
- 長谷川委員
- ・ 町内会としての課題は、人口減少に伴い加入者も減少していること。また、町内会の活動に対して無関心な人もみえるため、まちづくり協議会と一緒に、まちづくりや地域の活性化に興味を持っていただけるようにしたい。
 - ・ 労働については、子育てしている人が子どもを預けやすい環境をつくるなどの環境整備が必要。
- 門前委員
- ・ 満足度の結果をみると、生活環境や上下水道などハード面は高い状況となっているが、労働などソフト面が低い状況なのは大きな課題である。
 - ・ 先ほど、労働者不足との話があったが、一方では高山には働く場が無いとの声もある。この声の相違について検討していく必要がある。
 - ・ まちづくり協議会としては、子ども達が高山を誇りに思う、郷土を自分の故郷として自慢に思えるようにしていくことが必要だと考えている。地域の取り組みに子ども達を巻き込んで、そのような思いを育んでいきたい。
- 堀会長
- ・ 協働のまちづくりは、総合計画でも大きな軸としており、人口減少が進んでいく中で確立していく事が重要となる。労働に関して、他にいかがか。
- 下屋委員
- ・ 労働について大きな課題として、都市部との賃金格差がある。賃金を上げれば解決されるというものでもないが、高山市に戻って来てもらうことを考える上では、賃金の底上げも必要ではないか。
 - ・ また、4年制大学が無いことも人口流出の大きな原因でもあるため、サービス業などに特化した人材育成ができる大学があれば良いと思う。
- 堀会長
- ・ 第八次総合計画の中では、サテライトキャンパスやインターンシップなど大学連携について位置付けているため、皆さんにもご協力いただきながら進めていけたらと思う。

- ・地球環境についても市民満足度が低い状況となっているが、その辺りいかがか。

- 村上委員
- ・清見地域にて、ドイツ方式を用いた林道が整備されている。水捌けも良く、道路の状況が良い。このような林道整備が進めば、資源の有効活用が図られ、林業の活性化にもつながる。
 - ・林業の現場へ行くと、とても素敵な作業服を身に付けている。着たいと思えるような作業服も一つだと思うが、若者を呼び込むためにも、若者に魅力を感じてもらえるような取り組みが必要だと考えている。
- 内木委員
- ・林業に興味を持ってもらうことは中々難しい現状にあるが、森林組合にはUIJターンで就職している人が多くいる。また、その方々の多くは定住している。
 - ・地域の人達との交わりが大切。高齢化が進んでいるが、そのような高齢者からチェーンソーなどの使い方を学ぶなど、若者と高齢者との交流が必要。地元にあるものを利用して地元の人達と取り組みを進めていけば、後継者も育成できるし地域の活性化にもつながると思う。
- 堀会長
- ・皆様の意見をお伺いすると、郷土教育に力を入れて欲しいとの声が多い。今後、総合計画を進めていく中で注視していきたい。消防分野で何か意見はあるか。
- 三宅委員
- ・火災への対応には消防団がかかせない状況。しかし、団員数は減少が続いている。人口減少も原因ではあるが、一部では、火災が起きた際に仕事を中断して行かなければならないことに抵抗感を持っている企業もあると聞いた。団員数は2,100人の定員に対して、約1,870人しかいない。女性消防団員の募集も進めているが、是非、各企業としても消防団の必要性を理解していただき協力いただきたい。
- 堀会長
- ・文化芸術分野では、こだま〜れなど力を入れていただいているがどのような状況か。
- 泉委員
- ・市内では様々なコンサートなどイベントをしているが、地域の特性なのか、その文化芸術に見合った対価を支払いたがらない傾向がある。特に、支所地域などでは、過去に補助などによりほぼ無料で鑑賞できたこともあり抵抗感が強く感じる。
 - ・様々な分野で市からの補助金をあてにする傾向にあるが、文化芸術は独創的で自分達で造り出すものであるため、そのような考え方では衰退していくと思う。補助金をいただくことは有りがたいことではあるが、そろそろ自分達の力でやってみてはとの問いかけも大切だと考える。
 - ・文化芸術分野では、子ども達に感性を豊かにして欲しいため、様々なイベントの入場料をととても安くしている。それにより、子ども達が大人になった時に文化芸術に興味を持ってもらえる。様々な分野で、それぞれが努力していけば、今後の高山市も大丈夫だと考えている。
- 堀会長
- ・市民アンケート調査の結果をみると、子育て環境についての意見が多くあるが、平塚委員何かご意見はあるか。
- 平塚委員
- ・乳幼児の子育てをしているお母さん方から、不妊治療への助成がとても助かっていると聞いているため是非とも継続して欲しい。

- ・高山市の子育て支援についてはとても充実しているが、保育園に預けることができる基準がもっと緩和できたらと思う。二人目を産む母親が、仕事をしていないため保育園には預けられないとの相談を受ける。保育園の目的を考えると仕方ないことではあるが、何か方法がないものか。
- ・学童保育についても、利用したい児童は増えているが、スペースの問題や指導員の確保が困難なこともあり体制が充分ではないよう。働きやすい環境を整えるためには、細かいところにも目を向けていく必要がある。

堀会長 ・学童保育について意見をいただいたが、施設を増やしていると聞いているが状況はどうか。

清水係長 ・平成28年度から対象児童を小学校3年生から小学校6年生まで広げたこと、また、仕事のため子ども預ける方が増えていることなどにより、児童数が増えていると考える。
 ・市として対応は進めているが、学校の教室も限られているため、地域の施設の活用ができないか検討を進めているところ。

堀会長 ・益田委員何かご意見はあるか。

益田委員 ・障害者差別解消法が施行されたが、まだまだ市民への浸透は足りない状況にある。私たち障がい者自身が、配慮を必要とする旨を意思表示しなければならないが、その手法について学ぶ場があると良い。
 ・岐阜県では、障がい者の社会参加の推進を図るために、障がい者でも参加できるスポーツイベントが増えている。市にも、車いすの人でもできるスポーツなど、スポーツ教室の開催支援があると良い。また、飛騨ブロックで障がい者の体育大会が開催されるが、主体は障がい者協会となっている。市が主体となることで、もっと幅広い参加が求められるため是非検討いただきたい。

(2) 人口減少について

資料に基づき事務局が説明

堀会長 ・説明によると、65歳以上人口が増加しているが、何かご意見はあるか。

高垣委員 ・長寿会では、健康で長生きすることを目標として取り組んでいる。高齢者は、様々な方々に助けられる面が多いが、今後は、高齢者同士で助け合っていくことが必要だと考えている。そのために、組織でのつながりを強くしていきたいが、旧高山市内では連合長寿会への加入が少ない状況。
 ・まちづくり協議会の中に高齢者部会が組織されている。今後は、高齢者部会が連合長寿会に変わり組織化を進めていただけたらありがたい。高齢者も助けられるばかりでなく、何か人の役に立つことが出来れば、健康で長生きしていくことにつながると思う。

田邊委員 ・一之宮まちづくり協議会では、子ども達に地域愛を育んでもらうために、保育園児から中学生まで、様々な行事に参加してもらっている。中学生は夏祭りなど自分達で計画して実施している。地域行事などに参加してもらい、小さい頃から地域の良さを根付かせていけば、大学進学などで外へ出て戻って来てく

れるのではないか。それが、地元の活性化にもつながると考えている。今後は、長寿会の皆さんにも様々な行事に参加していただけたらと思っている。

- 桑山委員
- ・自分自身は、祖母から長男だから高山へ帰ってくるよう言われ続けてきたので、帰って来ることが当たり前感じていた。皆さんのお話を聞く中で、地域のつながりの必要性を強く感じた。
 - ・人口減少の説明にもあったが、15歳～64歳人口が大きく減少している。若者の県外への流出が止まらないのは、大学で学んだことを活かせる職場が少ないことも原因ではないか。
 - ・地域を活性化させるためにも、若者が起業しやすい環境を整えていくことが大事。そうすれば、地元に戻ってくる子ども達も増え、さらには起業を夢見ている人たちが高山へ移住してくれると思う。そのためにも、私達の団体でも地域のつながりを高めていくような活動をしていくと共に、高山市のPRに力を入れていきたい。
- 堀会長
- ・起業については、高山市、商工会議所にて創業支援金やUIJターナー者への支援など、他自治体よりも力を入れている。青年会議所のような若者の力で、是非、積極的に新しい分野に興味を持っている人々などにPRをしていただきたい。

(3) 意見交換

- 野中委員
- ・審議会の設置条例では会議の目的は調査・審議となっているが、提案することはできるのか。
- 田谷課長
- ・企画提案をするような場ではないが、審議いただく中で、提案や改善などのご意見をいただければ、計画に反映させていただきたいと考えている。
- 野中委員
- ・職人が激減している。例えば、春慶の木地師は4、5人しかいない。減少した理由として商売として成り立たないことがある。このような現状が続けば、高山から工芸品がなくなってしまう。
 - ・また、高山市は面積の約92%が森林であり、その多くが杉であるが、杉が毛嫌いされている。市内で新築される住宅もメーカー住宅が多く、市で生産する木材の需要が少ない。飛騨の木の良さを広めるためには、木の文化を知る必要がある。木材の需要を高めていくことができれば活性化にも繋がり、人口減少の対策にもなる。
- 和賀委員
- ・市民アンケートの中に、除雪に対する意見が多くあがっている。除雪については市内の事業者の方へお願いし、交通の確保に努めている。沿道の出入口が塞がる等の苦情については対応をしていきたいと考えているが、皆さんにもご協力いただきたい。なお、国道41号の通学路になっている交差点には、飛騨高山高校の生徒からの発案で、雪またじのためのスコップを設置している。今後も、皆さんのご協力をいただきながら道路環境の整備に努めてまいりたい。
- 高木委員
- ・外国人観光客が大きく増加している。総合計画の取組だけが増加の要因ではないと思うが、総合計画の一定の成果だと感じている。ただし、増加した事実を

喜ぶだけでなく、それによるメリットとデメリットを把握する必要がある。

- ・メリットとしては、経済波及効果が上がったことや都会の資本が入ってきていることなどがあげられる。デメリットとしては、マナー問題や労働力のミスマッチなどがあげられる。
- ・今後、総合計画を見直していく上では、メリットについては、継続させるためにはどのような施策が必要なのか、デメリットについてはどのような対応が必要なのかといった視点を持つことが重要。

京極副会長

- ・今日の議事全般について。人口減少については、若者が地元に着しないことなどが原因としてあげられているが、もう一つの大きな理由として少子化問題がある。合計特殊出生率が2.08以下では人口が維持されない。現在の高山は1.6程度。子どもを増やすためには、結婚する必要があるが、未婚率も高い状況にある。女性も仕事を続けたい人が増えている。子育てをしながら働ける場を整えていくためにも、もっと、女性が意見を言える機会が必要だと感じている。

堀会長

- ・これまで、皆様のご意見をお伺いする中でも、高山市の抱える課題は人口減少と若者の定住化だと思う。人口推移の結果を見ても、支所地域では減少が加速化している地域もあり、今後、第八次総合計画についてもそのような地域への対応など見直しが必要になってくるのかもしれない。委員の皆様も今後も総合計画の進捗についてご尽力いただきたい。最後に事務局より何かあるか。

田谷課長

- ・大変貴重な意見をいただき、ありがとうございました。今後いただいた意見について検討していきたい。
- ・今回の議題の中で労働について意見をいただいたが、アンケート結果でも5人に1人しか満足していない結果について真摯に受け止めなくてはいけないと改めて感じた。観光を例に取り上げれば、観光客数が増えていく中で、受け皿となる現場の人材が育っていない状況がある。労働者を単に増やすことも必要がだが、将来を見据えた人材育成が必要。そのためにも、幼少期から大学生までの間に働くことについて学べる環境を作らなくてはならない。
- ・人口減少については資料には示すことができなかったが、高山地域の中心市街地の人口推移をみると高齢化が進んでいる。
- ・今後の取り組みとして、高山市では大学連携を進めていくために、大学連携センターを来年度立ち上げたいと考えている。このセンターは、様々な関係機関が参加しやすくなるよう外部組織として立ち上げる。

針山委員

- ・総合計画の内容を審議し計画に反映していくためには、審議会を年数回開催する必要があるので考えているがどうか。

田谷課長

- ・ご意見いただきましたので、回数については今後検討していきたい。

堀会長

- ・他にご意見も尽きたようですので、これで審議会を終了します。